

令和元年度 第3回 札幌市 ICT 活用戦略検討有識者会議 議事要旨

【議題1】札幌市 ICT 活用戦略改定案（素案）の検討について

■ 「イノベーション・プロジェクト」について

- オープンデータの専門でない各部署の職員に対して、オープンデータの作成方法などを個別に教えていったり、作成を依頼したりするのは大変だと思う。そのため、オープンデータに関する専門部署を設置し、そこで作成した方が簡単だと思うし、推進しやすくなると思う。札幌市の中に、組織全体をヨコに調整しながら ICT 化やオープンデータを推進していくセクションがあってもよいと思う。
- イノベーション・プロジェクトの実証事業と ICT 活用施策の関係がよくわからない。例えば、除排雪については、イノベーション・プロジェクトの実証実験で行った取組内容と ICT 活用施策に記載されている事業の内容が繋がっていないように見える。
- イノベーション・プロジェクトの図の中に、都心のまちづくりとしてチ・カ・ホが例示されているが、この取組はチ・カ・ホに限定せず、都心の他の地下空間にも拡張を予定していることから、そういう図にしたほうがよい。

■ 「ICT 活用施策」について

- MaaS (Mobility as a Service) の取組で SAPICA を活用するとのことであるが、キャッシュレスの決済システムはグローバル化していつているのに、SAPICA という札幌市独自の仕組みを死守するといった方針でよいのだろうか。MaaS には賛成であるし、SAPICA の有用性もわかるが、この方針が世の中の流れに融合するかどうかだと思う。
- 札幌はコワーキングスペースが少なく、どこにあるのかわからない。「ワーケーション」や「サテライトオフィス」に関心が高まっている中で、札幌はこの分野の盛り上がりがないように思うので、こういった点にも力を入れてほしい。
- 学校教育について、いじめやこころの問題などで不登校になった子ども達が学びやすい環境を、ICT を使ってフォローしていくことも重要になってくるかと思う。
- 行政の効率化における「在宅ワーク」について、職員が自宅で仕事を行うことなのであれば「在宅勤務」とした方がよい。「在宅ワーク」は業務委託のことを指す場合が多い。
- 「札幌に居ながらにして」という部分は、札幌以外のどこか別のところに居ながらにして札幌での仕事をすることもあるだろうから、「どこにいても～」とした方がよいのではないか。
- キャッシュレスについて、インバウンドへの対応のみでなく、「市民に対してのキャッシュレスの普及」についても推進し、「SAPICA を市民がより使いやすくする」といったことに打ち出してほしい。

- SAPICA について、なぜ事業者が SAPICA のデータを使わないか。反対に、なぜ QR 決済事業者はデータを簡単に使えているのか。そこを考えないと、事業者や市民はついて来ないだろう。
- 全事業者が完全にキャッシュレス化していくことは難しいだろう。特に中小の事業者にとって決済手数料の負担は重く感じると思う。キャッシュレス化によって現金を収受する窓口の人員をゼロにできるならよいかもかもしれないが、その段階になるまでには、相当の時間を要するのではないかと思う。
- 「広報さっぽろ」は優れた情報発信媒体であり、重要な社会インフラだと考える。「広報さっぽろ」のあり方をどこかで議論して位置付けてほしい。メディアミックスを図ることにより、取りこぼしのない情報発信のあり方を検討する必要がある。
- 「広報さっぽろ」から講座情報の掲載を止めたことは何か理由があるだろうが、SNS で配信しているのであれば、それはオープンデータとして活用可能なものとするべきではないか。
- 大通公園やチ・カ・ホなど、札幌はまちがメディアであり、そのことが評価されてユネスコの創造都市に認定された経緯があるので、文化や創造都市に関する項目も入れた方がよい。いかに札幌がメディア・アーツ都市として頑張っているか、この ICT 活用戦略の中でも打ち出したほうがよい。
- 情報には、自分から取りに行くプル型情報と相手から届けてくれるプッシュ型情報があり、ICT 活用という視点では、どうしてもプル型のものを中心に考えてしまう。ただ、ユーザーの立場からすると広報さっぽろのようなプッシュ型は、やはり有難いもので、行政サービスとしてのプッシュ型情報の提供は重要だと思う。
- オープンデータのポリシーは「One source」である。「広報さっぽろ」の例でいえば、一番根底にあるデータを共通化することで、オンライン版にも、紙媒体にも、サイネージ版にも活用しやすくなる。それがオープンデータのわかりやすい例だと思う。オープンデータについては、「One source Multi use」というメッセージをどこかに入れることはできないか。
- イノベーション・プロジェクトでは、これまで実施してきた成果についても触れるべきではないか。

以上